

平成31年3月10日号 (第194回)

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「小児の救急のかかり方、登園・登校の心構え」をテーマに、小児科 松村 昌治 医師よりお話しさせていただきます。

## ◆小児の救急のかかり方

お子さんが発熱した、嘔吐した、痙攣した、呼吸が苦しそう、怪我をしたなど、親御さんにとっては緊急事態という場面はよく訪れます。その時に救急車を呼んだらいいのか、急いで救急にかかった方がいいのか悩まれる場合も多いと思います。



子供の病態には色々なものがあり、それが緊急事態であるかそうでないかの判断をいつでもできるかという点、一般の方には無理で当たり前です。

例えば発熱していても、元気に走り回っていたり、一度嘔吐しても、その後水分が取れていけば、基本的には緊急性はありません。痙攣しても15分以内で意識が戻って、繰り返すことがなければ心配ないなど、一つのことだけでは判断できないことが多いです。

ただ、骨折している、意識がないなどはもちろん救急車を呼んだ方がいいと思います。私も、息子が自転車の練習の際に転んで額を切った時は、骨が見えていて、急いで救急にかかり、傷を縫ってもらいました。その時は焦っていて、何を言っていたのかさっぱり覚えていません。親の気持ちってそんなものです。

ですので、私はそのような親御さんに寄り添って、来ていただくことをなるべく拒まないようにしておりました。病院に来れば安心と思われる方も多く、落ち着いてお話をさせていただくと納得される方が多いので、親御さんの皆さんは冷静だと感心するものです。

子育て中は不安になることがたくさんあります。不安であれば何が不安なのか、どうしてそう思うのかなど、どんどんぶつけていただければと思います。また病院に行った方が良いのか分からないときは、当院の救急窓口にお電話いただくか、東京都の小児救急相談窓口をご利用ください。少しでも皆さんの不安を解消し、子育てをしやすい地域にしていければと思っております。

## 電話相談窓口

- ・ 公立阿伎留医療センター 緊急・救急窓口 042-558-0321 (代表)
  - ・ 東京都 子供の健康相談室 (小児救急相談) #8000
- (月～金 午後6時～午後11時、土日祝日 午前9時～午後11時)

### ◆登園・登校の心構え

次に、学校や保育園などに行く基準ですが、ほとんどの方が体温を基準にされています。もちろん体温が高ければ、体調が良いとは言えませんが、子供の体調は体温だけでは測れません。顔色がどうか、食事は摂れているかなど、それ以外の部分も見てあげてください。新生児や乳児などは言葉で伝えられませんので、ご両親の「なんとなく調子が悪い」という思いが、重大な病気の前兆であることもあり、小児科ではとても重要なサインとされています。



また、体温が下がったことと体調が良くなったことはイコールではありません。熱のあった翌日はできれば休ませていただきたいです。その理由は、子供の体温は朝には下がる傾向にあり、夕方から夜に上がる傾向があるからです。つまり、朝に解熱しているのは、たまたま熱が下がったように見えているだけで、体調が悪いことは持続している場合があります。丸一日くらいは熱がないことを確認し、食事も摂れ、元気に遊べれば、体調が良くなったという判断をする方が間違いないです。また「病み上がり」というものもあります。病気が治ったように見えてもまだまだ本調子でない時に使う言葉です。熱が下がったからと言って無理をさせると、風邪がぶり返したり、もっと重症になってしまうような場合もあります。

ただ、最近は両親とも働いていらっしゃる親御さんも多く、なかなか仕事が休めないなどの事情もあります。その場合は是非『病児・病後児保育室 んくもり』をご利用いただければと思います。

末筆になりましたが、私はこの3月で退職します。まだまだこの地域での診療を継続させていただき、公立阿伎留医療センターとも連携をはかっていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)